

## 略 歴

- 1948 パキスタン、パンジャブ州ファイサラバード市の伝統的なカッワール（カッワールリーの歌い手）の家に、長男として生まれる。
- 1964 高名な音楽家であった父ファテ・アリー・ハーンの死を機に、カッワールになることを決意、3人の叔父から本格的な訓練を受ける。父のチェヘルム（40日忌）の儀式でデビュー。
- 1971 叔父の死によりグループのリーダーになり、本格的な演奏活動を開始。
- 1975 「アミール・フスロー生誕700年祭」で演奏し、第1位を獲得。
- 1979 インドのムーヌッディーン・チシュティー廟を参詣、廟内での演奏を許可される。インド亜大陸の著名な芸術家・文化人の前で演奏（外国での初演奏）。
- 1980 初めてノルウェー、デンマーク、イギリスのパキスタン人社会で公演（以後、恒例となる）。
- 1985 ロンドンで開催されたワールド・ミュージックの祭典「WOMAD(ウォーマッド)」に出演し、大きな反響を呼ぶ。第1回パリ公演（テアートル・ド・ラ・ヴィル）。
- 1987 国際交流基金の招きで初来日、「第5回アジア伝統芸能の交流」のセミナーと公演に参加。パキスタン政府から芸術部門の大統領賞を受賞。
- 1988 第2回パリ公演。米映画「The Last Temptation of Christ（最後の誘惑）」（マーティン・スコセッシ監督）のサウンドトラックの一部で演奏。
- 1990 2度目の来日公演。
- 1991- イムラーン・ハーン癌病院、エーディー基金、アーガー・ハーン病院のための数多くのチャリティー公演を行う（米、英、独、ノルウェー、ケニア、湾岸諸国等々）。
- 1991 日本で初めて開催された「WOMAD」祭に参加。
- 1992 3度目の来日公演。「WOMAD92横浜」に参加。
- 1992-93 米国ワシントン大学客員教授。ウィスコンシン大学でも講義と演奏。
- 1994 インド映画「Bandit Queen」（シェーカル・カプール監督）で音楽監督。米映画「Natural Born Killers」（オリヴァー・ストーン監督）のサウンドトラックの一部で演奏。
- 1995 米映画「Dead Man Walking」（ティム・ロビンズ監督）のサウンドトラックの一部で演奏。ユネスコ国際音楽評議会賞受賞。
- 1996 インド映画のサウンドトラック。

### 主な作品 （日本で発売されたCDとビデオのみ）

#### <CD>

- 「法悦のカッワールリー（I）」ビクター音楽産業、1988
- 「法悦のカッワールリー（II）」ビクター音楽産業、1989
- 「ショーハン・ショー」ヴァージン・ジャパン、1989
- 「情熱の炎」ヴァージン・ジャパン、1990
- 「シャバズ」ヴァージン・ジャパン、1991
- 「シュープリーム・コレクション」日本コロムビア、1991
- 「イエ ジョー ハルカー ハルカー」日本コロムビア、1991
- 「神秘詩集 Vol.1」東芝EMI、1993
- 「神秘詩集 Vol.2」東芝EMI、1993
- 「究極のパリ・コンサート（1）」キング・インターナショナル、1994
- 「究極のパリ・コンサート（2）」キング・インターナショナル、1994
- 「究極のパリ・コンサート（3～5）」キング・インターナショナル、1994
- 「サーンソーン・キ・マーラー」日本コロムビア、1995

#### <ビデオ>

- 「音と映像による世界民族音楽大系」南アジア篇 日本ビクター、1988
- 「ヌスラット・ファテ・アリー・ハーン：Live in Paris 1988」MSI、1991